

## 事前評価個表

整理番号	5
------	---

地域（地区）名	<small>あいづ</small> 会津	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	福島県	対象市町村	<small>あいづわかまつし</small> 会津若松市ほか16市町村
事業実施期間	H29 ～ H33（5年間）	事業実施主体	県、市町村、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>本地区は、福島県の西部に位置する「会津」と呼ばれる地域で、2市11町4村からなり、総土地面積は542千haで県土の39%を占めている。森林面積は446千haで、民有林が240千ha（森林全体の54%）、国有林が206千ha（森林全体の46%）となっており、うち民有林の人工林面積は55千ha（人工林率23%）で、主にスギやカラマツ、アカマツであるが、特産のキリや小面積ながらウルシの造林がみられる。</p> <p>特に、間伐等を必要とするⅢ～ⅩⅡ齢級の林分は、43千haで人工林の78%を占めており、間伐や主伐後の再造林などの適正な管理は急務であるが、林業採算性の悪化や原発事故による放射性物質の影響により森林所有者の林業経営意欲が減退し、継続的かつ適正な森林整備が困難な状況になっている。</p> <p>また、本県では、福島県総合計画「ふくしま新生プラン」において、ふくしまの目指す将来の姿として「低炭素・循環型社会」を掲げており、二酸化炭素の吸収を始め、水源涵養など多面的な機能を有する森林を、適正に管理していくことはもとより、構造材やバイオマス燃料としてなど、循環利用が可能な資源である木材の利活用が求められている。</p> <p>さらに、林業・木材産業の再生を図るため、森林経営計画の樹立による施業の集約化と、ふくしま森林再生事業による放射性物質対策と一体となった森林整備の推進を図る必要がある。</p> <p>このため、会津地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づき、意欲と実行力を有する林業事業者等による、集約化された計画的な森林施業の実施を促進し、適正な森林整備とともに、森林の多面的な機能の維持増進と間伐材の利活用等を推進する。</p> <p>具体的には、本計画に基づき、本事業による効率的な施業に不可欠な森林作業道の整備と搬出間伐や再造林等の森林整備を一体的・計画的に実施する。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：5,673ha 人工造林、樹下植栽、下刈、雪起こし、枝打ち、除伐、間伐、更新伐等</p> <p>総事業費：1,624,068千円</p>
費用対効果分析結果	<p>B/C = 6.19 (総便益(B) = 17,586,085千円、総費用(C) = 2,842,596千円)</p>
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の状況、伐採跡地の計画的な更新等森林整備の緊急等から見て必要性が高い。</p> <p>効率性：費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって二酸化炭素吸収機能や水源涵養機能、山地災害防止機能等の確保はもとより、保健休養の場として活用される見込みも高く有効である。</p>

## 便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業

都道府県名: 福島県

地域(地区)名: <sup>あいづ</sup>会津

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源 <sup>かん</sup> 涵養 <sup>あ</sup> 便益	洪水防止便益	1,701,711	
	流域貯水便益	478,538	
	水質浄化便益	1,086,174	
山地保全便益	土砂流出防止便益	2,342,682	
	土砂崩壊防止便益	69,125	
環境保全便益	炭素固定便益	7,161,398	
木材生産等便益	木材生産確保・増進便益	4,746,457	
総 便 益 (B)		17,586,085	
総 費 用 (C)		2,842,596	
費用便益比	$B \div C = \frac{17,586,085}{2,842,596} = 6.19$		

